色暦女浮世絵師（1971）

メディア 映画
ジャンル
製作国 日本
色彩 Color
時間 66分
初公開日 1971/12/18

【解説】
新関次郎の脚本を曾根中生が監督した、日活ロマンポルノの一作。しかし内容は人間の業を描いた時代劇で、しかもBGMはクラシック音楽(バッハ)という異色作。曾根の監督デビュー作となった。
売れない絵師の鳥川雪英とその妻おせきは、江戸の貧乏長屋で暮らしていた。病弱な雪英の飲む薬草が底をついたため、おせきは野原まで薬草を摘みに出かけるが、そこで見知らぬ男に犯されてしまう。雪英は風景画ではなく春画を描こうとするがうまくいかず、おせきが奉公に出ている宿で覗き見しながら描いたスケッチを元に春画を完成させる。春画は評判となり売れるようになるが、雪英は自らの命を絶ってしまった。おせきは自分を犯した男をモデルとした春画を描き、復讐を果たそうとする。

【クレジット】
監督 曾根中生
企画 岡田裕
脚本 新関次郎
撮影 森勝
音楽 Ｊ・Ｓ・バッハ Ｊ．Ｓ．Bach
出演 小川節子
前野霜一郎
嵯峨正子

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.